

1 事業名

平成30年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークちゃれんじくらぶ」 ～ドキドキ わくわく・夏～

2 趣旨（事業の目的）

自然体験をとおして、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティア高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期日 平成30年6月23日（土）～24日（日）

4 参加者 121名（盛岡市・滝沢市・八幡平市・北上市・矢巾町・雫石町の小学3～6年生）

5 後援 盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，八幡平市教育委員会，雫石町教育委員会

6 内容

(1) 日程

日時	13:00		13:30	14:00	15:00		16:30	18:00		19:00	20:00	21:00	22:00
6月23日 (土)			小学生 受付	は じ め の 会	ドキドキわくわく 友達作り	ドキドキ わくわく 基地作り	ドキドキ わくわく 自分だけの 星空作り	夕 食	ドキドキ わくわく キャンドルナイト	入 浴	就 寝 準 備	就 寝	
日時	6:30	7:00	7:30	8:30	10:00	12:30	13:30	14:00	14:30				
6月24日 (日)	起 床	洗 面 ・ 準 備	つ ど い	ドキドキ わくわく 朝ごはん	テント撤収 荷物移動	ドキドキ わくわく ふおとラー	昼 食	ア ン ケ ー ト 記 入	お わ り の 会	参 加 者 解 散			

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	工 藤 祐 幸
	企画指導専門職	松 本 博 路
	事業推進係	山 崎 啓 陽
指導補助	法人ボランティア	11名

(3) 企画のポイント

参加した小学生が、安全に楽しく2日間を過ごすことができるように、体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生を、グループリーダーとして配置した。そして小学生が、高校生や大学生とのふれあいや体験活動をとおして、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことができる機会とした。

また、企画立案に際しては、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、活動全体をとおして、コミュニケーションが深まるようなプログラムを構成した。そして、それぞれの活動において、参加者同士や高校生・大学生とのコミュニケーションを図れるように配慮した。「ドキドキわくわく友達作り」では、初対面の参加

者の緊張を解きほぐすために、体を動かしながら参加者同士が関わり合うアイスブレイクを計画した。その後の「ドキドキわくわく基地作り」では、キャンプ場でのテント泊に向けて、各班で協力してドーム型テントの設営を行い、オリジナル看板を作ることでコミュニケーションが深まるようにした。夜は「ドキドキわくわく自分だけの星空作り・キャンドルナイト」を行った。子供たちがオリジナルプラネタリウムを作り、企画ボランティアが装飾した岩手山をイメージしたイルミネーションとコラボさせ、全員の作品を組み合わせることで共同制作の楽しさ、一体感を味わえるようにした。「ドキドキわくわく朝食作り」では、カートンドック（ホットドック）に挑戦し、手洗いや消毒等の衛生管理についての共通理解を図り、ビニール手袋を付けて調理させた。「ドキドキわくわくふおとらりー」では、グループで写真の地図を頼りに館内を散策し、チェックポイントを捜したり、見つけた文字カードで生き物の名前を考える課題を協力して解決したりして、参加者と支援ボランティアが協力して活動できるよう工夫した。

（４）広報のポイント

前年度末には、年度の事業一覧を岩手県内全児童に配付し、年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へは、開催要項とチラシ、ポスターを送付した。

（５）運営のポイント

小学生８～９人の１４グループに、体験活動支援セミナーの参加者を２～３名ずつグループリーダーとして位置付けて、小学生の参加者が安心して参加できるよう配慮した。そして、参加者がより楽しく活動するために、班のコミュニケーションを深めるゲームや共同作業において、グループリーダーが率先して子供たちに関わるように声がけをした。また、グループリーダーがうまく関わることができないでいる班には、企画・運営に関わる先輩法人ボランティアが間に入りコミュニケーションのきっかけをつくることを心がけさせた。

全体での共通理解を図りながら運営に関われるよう、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。（補足資料１を参照）

７ 成果とその普及

テンパークちゃれんじくらぶは、参加者の約半数がリピーターであり、人気が高い事業となっている。初めて参加する子供たちの中には、不安や緊張を感じていた面も見られたが、各グループのリーダーや友達と関わる中で次第に打ち解けていき、笑顔で活動を楽しむ姿が見られた。また、グループリーダーたちは、子供たちが純粋な心と笑顔で親しく接してくれることで、次第に自信をもって子供たちと関われるようになっていくなど相乗効果も見られた。参加者のアンケートからも「秋、冬はいったことあったけど、夏も楽しかったです。テントをたてたり、星を観たりなどして楽しかったです。」「初めてキャンプ（テント泊）をやってみて最初は何もわからなかったけど、新しくできた友だちと協力できたので楽しかったです。」「お兄さん、お姉さんと遊んだり友だちと協力したりというのがとても楽しかったです。またテンパークに来てお兄さんお姉さん達と遊びたいです。」「初めて会った友だち、大学生、高校生の人ととても仲よくなれた。（今までで１番）とてもいい思い出ができたので参加して良かった。」など、一つ一つの活動も楽しいが、他の学校からの参加者や高校生、大学生と活動したことが楽しかったという感想が多く寄せられた。活動中の様子からも、子供たちに「生きる力」として必要とされているコミュニケーション能力の向上につながることであった内容であった。１泊２日という短い期間ではあるが、子供たちが十分に満足できる活動を提供できたものとする。

8 今後の課題

グループリーダーだけでなく、参加者である子供たちも主体的に行動することができるように、活動に対しての見通しと安全管理の意識をもたせる必要がある。特に高学年の参加者には、グループリーダーの指示を聞き、下学年に教えながら活躍できる場を意図的に設定することが大切である。具体的には、リーダーや子供たちが、2日目の昼食後に休憩・自由遊びの時間のグループ活動の工夫が考えられる。活動のねらいを明確にしてプログラムに位置付けることで、コミュニケーションの幅の広がりにもつなげることができると感じた。



ドキドキわくわく基地作り
(テント設営)



ドキドキわくわく自分だけの
星空作り
(創作活動)



ドキドキわくわく朝ごはん
(野外炊事)

補足資料1 テンパークちやれんじクラブ及び体験活動支援セミナー 組織図

